

あらしのよるに逃げ込んだちいさな小屋の暗闇の中、2匹の動物が会う。風邪をひいて鼻のきかない2匹は、お互いがオオカミとヤギ、つまり「食うもの」と「食われるもの」であることに気付かない。すっかり意気投合したヤギとオオカミは、翌日のお昼に会う約束をする。合言葉は、「あらしのよるに」。

ふしぎな友情物語が、いまはじまる。



群読「あらしのよるに」オオカミは和太鼓、ヤギは篠笛の音色に乗せて。

憲法を人生の中に 吉田千秋（岐阜・九条の会）

今日11月3日は「文化の日」という祝日ですが、71年前に日本国憲法が公布された日です。その翌年の同日、当時の憲法担当大臣金森徳次郎は、「戦争を放棄した世界最初の憲法、そのこと自体が高い文化性を物語っている」と述べました。さらに、「戦争は文化を滅ぼすものであって、(中略)文化をして戦争を滅ぼさしめるべきが至当である」と、戦争と文化と憲法のつながりを明快に語っています。文化は人間を人間らしくさせてきた結晶ですから、この憲法をしっかりと活かすことが私たちの暮らしと人生を生き生きと輝かせる基本・原点であり、ひいては戦争の廃絶にもつながるといえることです。ところがこの憲法、とくに第9条を何としても変えようと躍起になっているいまの政権は危ないですね。こうした動きが出てくるのには、私たちの憲法の理解、とくに9条の理解をもっと深め、広げる点が足りなかったとも言えるでしょう。きむらさんも言われましたが、この憲法をもっともっと世界にも広めなければもったいないですね。

ところで平和ってなんでしょう？戦争がない、ということだけでいいのでしょうか。ドンパチやっている戦争状態がなくても、貧困や飢餓、差別、不衛生・病気、無教育などの常態化は、平和とは言えないでしょう。やはり明日の生活に不安がなく、みんなが今日を穏やかに過ごせることではないでしょうか。そういう点で「平和とはひとの痛みが分かること」が、大切だと思っています。です。これは四国の霊場の一つ「石手寺」に掲げてあった文ですが、今の様々な社会状況、人間のあり方をに照らしてみ、ピタッと当てはまります。

相手のことをよく知ること、相手の痛みが分かること、これをしてできないと自分勝手なことばかりしてしまい、ケンカになるでしょう。～ファーストの立場、ヘイトスピーチなどは、ケンカを売り、戦争へのきっかけになるものです。相手の立場・状況・意見をしっかりと聞いて対話できること、この態度を基本にして、9条を壊そうとしている勢力に対してしっかりと声をあげたいものです。戦争というのは庶民が望んだものでもなく、民衆が起したものでもありません。権力を握っている人たちが、権力を利用して「国のため」「国民のため」と称して起したものです。

いまこそしっかりと憲法を守り、活かしたいものです・・・「憲法を人生の中に」を合い言葉にして。

言語、身体的、環境、価値観など色んな違いがあるけれど、喜怒哀楽は太古の昔からずっと一緒。相手に壁を作らない事、信じる心。40代

原発のない、戦争もない世の中。安全な食べ物主流になってくれるとうれしい。40代

戦争のない社会。貧困のない社会。50代

個々の個性が尊重される世の中が平和だと思う。

子宝先生 コラム

Vol.22

記事提供：野崎漢方



岐阜市芥見大般若2-34-3
河村病院 東 諏訪山団地口

お肌のご相談、子宝相談、食事の相談
漢方の野崎薬局 TEL 058-241-1661

子宝先生の漢方の野崎薬局
薬剤師鍼灸師 野崎利晃

ホームページにて子宝先生の食育情報配信♪